電子国家賛成論

 【電子国家とは】

　エストニアを例にとる。『電子国家』と検索すれば、エストニアが関連ワードとして出てくるためである。では、エストニアのどの点を指して「電子国家』と言えるのだろうか。

　私たちは「電子政府(e-Estonia)」の取り組みにあると主張する。e-Estoniaとは、電子国家への取り組みの総称を指す。

　例えば、その一環としてi-Votingがある。2005年、世界で初めてインターネットを媒体として行われた電子投票である。わざわざ投票所に出向かなくて済むという、便利かつ画期的な取り組みである。また、集計は３分しか要さず、ネットにつなげる環境ならば世界のどこにいても投票可能である。

　以上のようなi-Votingをはじめ、ブロックチェーンやe-Healthの取り組みも為されている。1997年から開始したe-Governanceにあるように、公共サービスのほぼ100％をネットを介して提供することが可能になったのである。

　私たちは以上のような、電子システムを社会体系に組み込んでいる国家を電子国家として定義する。

【主張】

　私たちは電子国家に賛成である。

　進化の見地に立つと、社会システムにVRやAIを組み込むことは、至極当然のように思える。

　国民の意見を、TVを通じて視聴者の意見を取り入れる番組も少なくない。

　有権者の意見を反映する（疑問票、無効投票解消）ことや、選挙結果が迅速かつ正確ということで、平成28年2月までに10団体が25回の電子投票を実施している。

　これはボトムアップ的現象として「国家の進化」「社会の変化」と捉えることができる。

　また、以上のように電子の恩恵を受けている以上、電子国家の誕生は不可避と考えて差し支えないように思うのである。実際、電子国家としてエストニアが存在している。

　よって、私たちは電子国家に賛成である。